



**OnTime for Microsoft
Ver.2.0.x Rev.1**

OnTime サーバー インストール・アップグレード マニュアル 目次

| | |
|---|------------|
| 1.概略 | |
| OnTime for Microsoft について | 2017/03/07 |
| OnTime for Microsoft インストール アウトライン | 2017/03/14 |
| OnTime for Microsoft アップグレード アウトライン | 2017/03/14 |
| 2.作業前準備 | |
| .NET Framework 3.5の機能を追加して下さい。 | 2017/03/14 |
| Exchange管理センターでOnTimeが利用する配布グループを準備します。 | 2017/03/07 |
| Exchange管理センターで役割グループを作成します。 | 2017/03/07 |
| 3.SQL環境構築 | |
| SQLサーバーのインストールします | 2017/03/08 |
| SQLサーバーの使用するTCPIPポートを変更します | 2017/03/13 |
| SQLにOnTimeアプリ用のユーザーを作成します | 2017/03/08 |
| 4.OnTimeインストール | |
| OnTimeアプリ用SQLデータベースをインストールします | 2017/03/08 |
| Tomcatと共にOnTimeアプリをインストールします | 2017/03/14 |
| 5.OnTime管理センター | |
| OnTime管理センターにログインします | 2017/03/08 |
| ダッシュボード | 2017/03/13 |
| データベース設定 | 2017/03/08 |
| ライセンス登録 | 2017/03/08 |
| 言語設定 | 2017/03/08 |
| グローバル設定-バックエンド | 2017/03/14 |
| グローバル設定-フロントエンド | 2017/03/09 |
| サーバー-サーバー設定 | 2017/03/09 |
| サーバー-同期ソース | 2017/03/09 |
| ユーザー設定-メンバー | 2017/03/09 |
| ユーザー設定-デフォルト設定 | 2017/03/14 |
| グループ設定-設定 | 2017/03/14 |
| グループ設定-静的グループ | 2017/03/12 |
| グループ設定-動的グループ | 2017/03/11 |
| 凡例 | 2017/03/14 |

1.概略 -

OnTime for Microsoft について

OnTime for Microsoftは下図でいうSQLサーバーとTomcatサーバー(OnTimeサービスを含む)で動作します。必要とするサーバースペックはご利用になる環境によって変わってきます。詳しくは販売パートナーにご相談下さい。

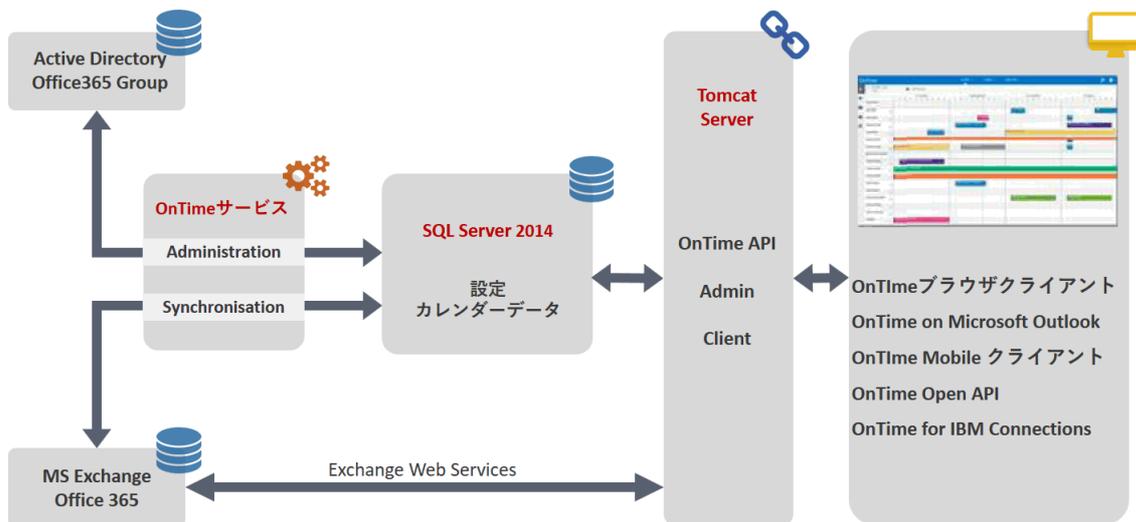
OnTime構成

- | SQLサーバー..... 各種設定や予定データのリアルタイムキャッシュを保持しています。
- | Tomcatサーバー..... ユーザー画面及び管理画面及びExchangeのデータ同期をまかないます。

使用TCPIPポート

- | 8080... Tomcatへの接続に使用します。
- | 80... ADとのSSOに使用します。

OnTimeをドメイン環境のExchangeと利用しログオンにSSOを使用する場合は、OnTimeもドメイン内にインストールして下さい。



OnTime for Microsoft インストール アウトライン

OnTimeのインストールは以下の手順に沿って行います。

1. Exchange管理センターでユーザー、会議室、備品それぞれの配布グループを準備します。
2. Exchange管理センターでOnTimeが接続に利用するユーザーに"ApplicationImpersonation"役割を付与します。
3. OnTime用にWindows2008 R2以上のサーバーを準備します。
4. .NET Framework 3.5の役割が未実装ならインストールします。
5. SQL Server 2014以上をインストールします。
6. ダウンロードしたプログラムファイルからSQLにOnTimeデータベースをインストールします。
7. ダウンロードしたプログラムファイルからTomcatをインストールします。
8. OnTime管理センターで各種設定を行います。
9. (オプション)必要に応じてAD連携のSSOプログラムなどのインストールを行う。

OnTime for Microsoft アップグレード アウトライン

OnTimeのアップグレードはアップグレード元のバージョンとの差から2種類あります。
SQL上のOnTimeデータベースに変更がある場合と無い場合です。

OnTimeデータベースに変更が無い場合

1. Tomcatを停止します。
2. Tomcatを旧バージョンのプロプラムファイルにあるアンインストーラーでアンインストールします。
3. 新しいプログラムファイルからTomcatをインストールします。
4. Tomcatを起動します。
5. OnTime管理センターで接続するデータベースをご利用のOnTimeデータベース名に変更します。

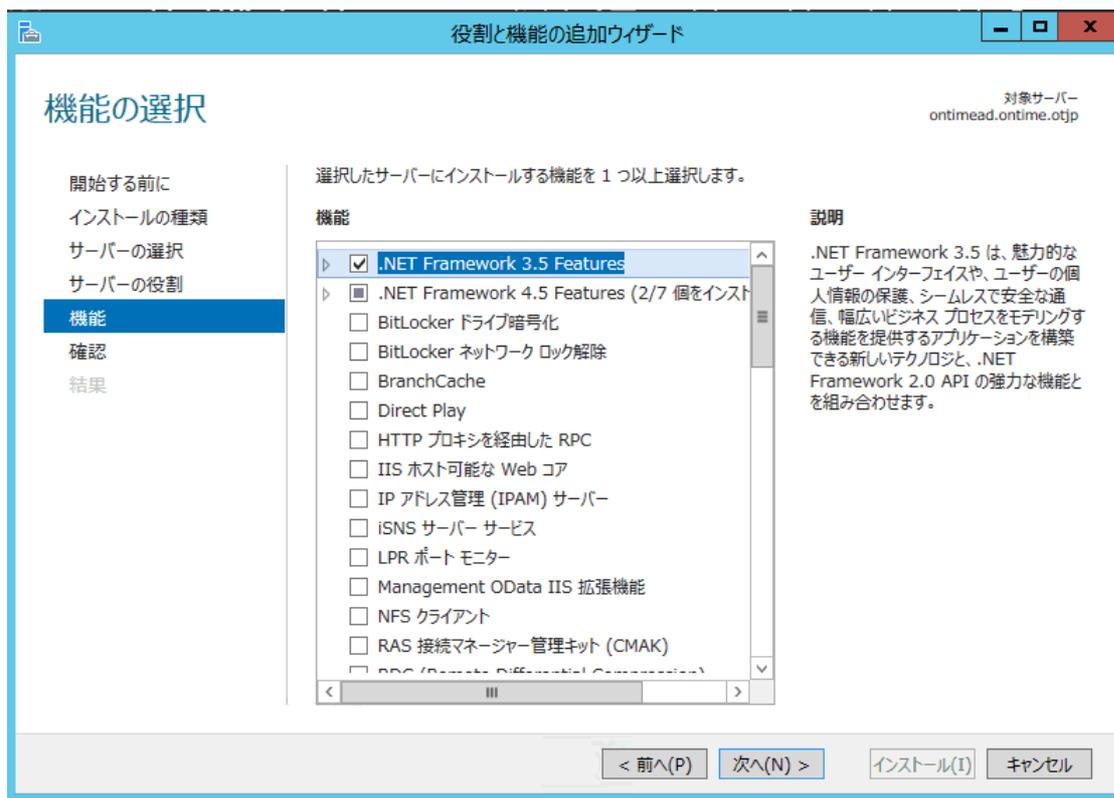
OnTimeデータベースが変更になる場合

1. Tomcatを停止します。
2. プログラムファイルにあるOnTimeデータベースのインストーラを実行します。
3. SQLマネジメントスタジオで旧データベースからのコンバートプログラムを実行します。
4. Tomcatを旧バージョンのプロプラムファイルにあるアンインストーラーでアンインストールします。
5. 新しいプログラムファイルからTomcatをインストールします。
6. Tomcatを起動します。
7. OnTime管理センターで接続するデータベースをご利用のOnTimeデータベース名に変更します。

.NET Framework 3.5の機能を追加して下さい。

ご利用のWindowsサーバーに.NET Frameworkの機能が追加されていない場合は、SQLサーバーの動作に必要なので機能を追加して下さい。

インストールの詳細はOSの管理者にご相談下さい。



2.作業前準備 -

Exchange管理センターでOnTimeが利用する配布グループを準備します。

ご利用のExchange環境からOnTimeを利用するユーザーを配布グループとして準備します。
OnTime内ではユーザー、会議室、備品は個別に管理されますのでそれぞれ個別に準備します。
本マニュアルでは以下の様な名前で配布グループをそれぞれ準備します。

配布グループの作成方法はExchange管理者にご確認下さい。

- | ユーザー.....OnTimePersons@組織ドメイン
- | 会議室..... OnTimeRooms@組織ドメイン
- | 備品..... OnTimeEquipments@組織ドメイン

Exchange管理センターで役割グループを作成します。

OnTime for MicrosoftをExchange OnlineやオンプレのExchangeに接続する際は、1人のユーザーアカウントが全ユーザーをImpersonation(日本語で演技や偽装)してスケジュールデータの入出力を行います。なのでOnTimeからEWSに接続するImpersonationユーザーアカウントにExchangeにデフォルトで実装されている“ApplicationImpersonation” ロールを付与する必要があります。

詳細は以下のFAQを参照するかExchange管理者にご確認下さい。
「Exchange側でのImpersonation Userの設定方法」
<http://www3.ontimesuite.jp/impersonation/>

本マニュアルではEWSに接続するユーザーを「OnTimeAdmin@組織ドメイン」とします。

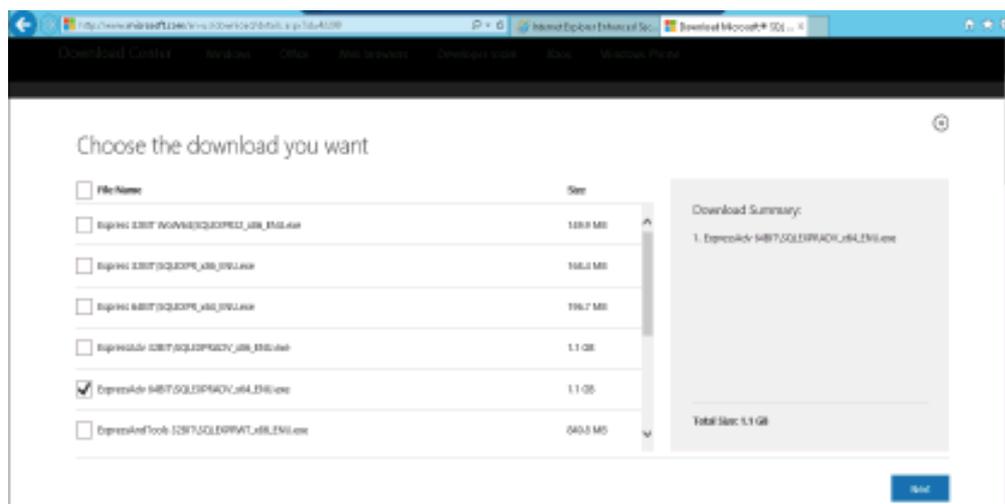
3.SQL環境構築 -

SQLサーバーのインストールします

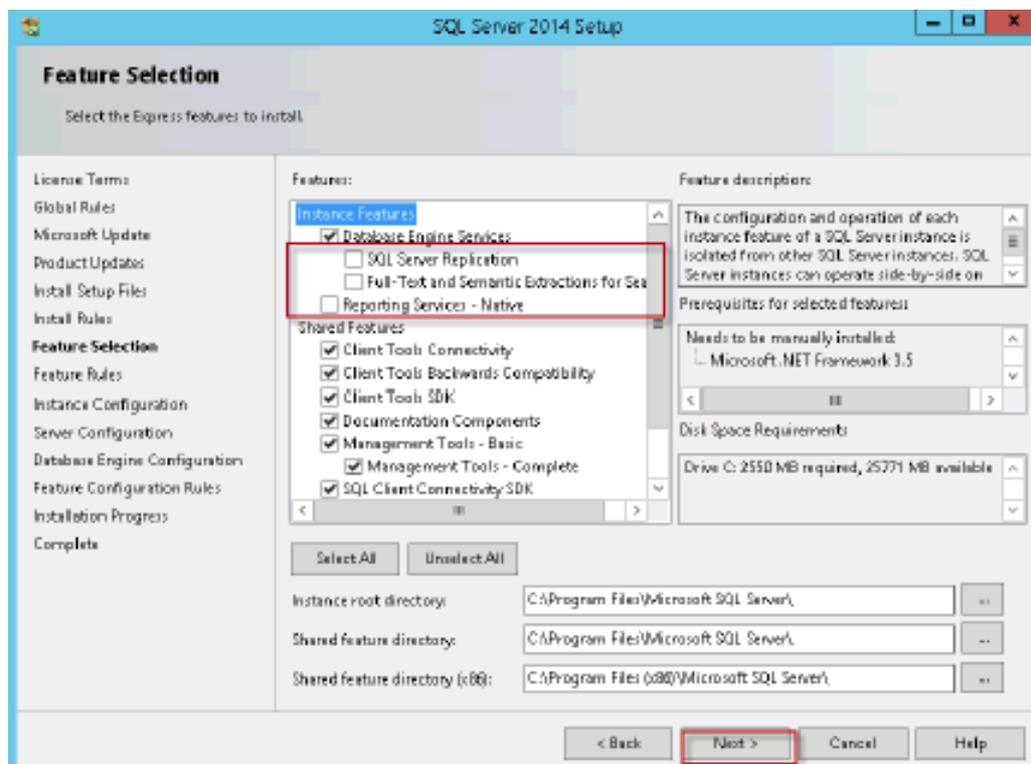
次にMicrosoft SQL Server® 2014 or 2016 Expressもしくはそれ以上のバージョンをインストールします。このマニュアルでは「SQL Server 2014 Express SP1 with Advanced Services 64-bit」をインストールします。インストール時に以下の3オプションはインストールしないようご注意ください。

- | SQL SERVER REPLICATION
- | FULL-TEXT INDEXER
- | REPORTING SERVICES

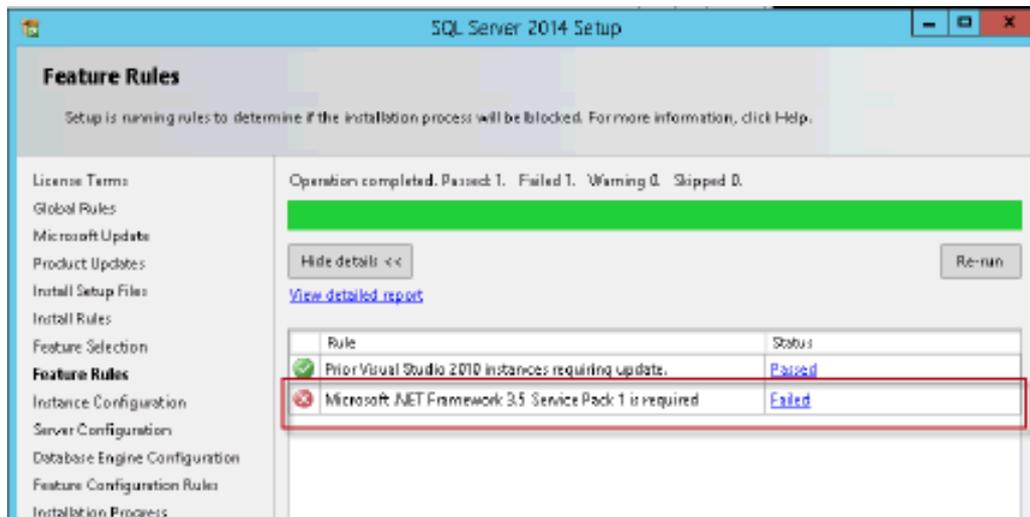
メディアはマイクロソフト社のサイトから最新版をダウンロードしてご利用下さい。



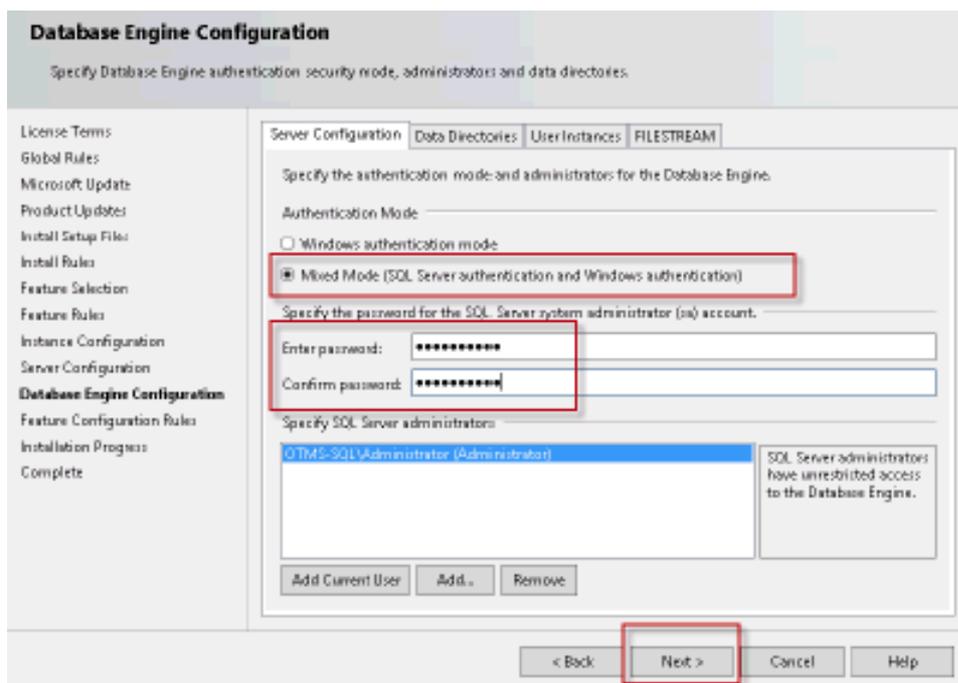
セットアップウィザードでは以下の3オプションのチェックを外してください。



以下の様なメッセージが表示された場合は「.NET 3.5 Framework」がインストールされていません。インストールを行ってから再度試みてください。



管理者の登録画面で、認証モードは「混在モード」を選択してsaのパスワードを登録してください。

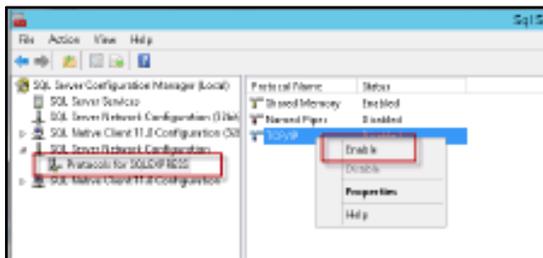


3.SQL環境構築 -

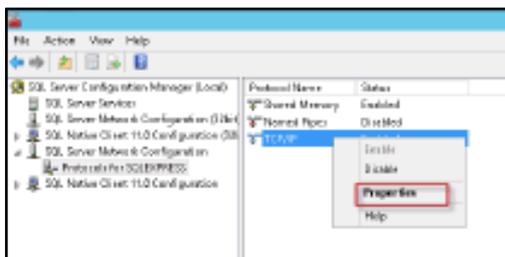
SQLサーバーの使用するTCPIPポートを変更します

SQL Server Configuration Managerを起動します。

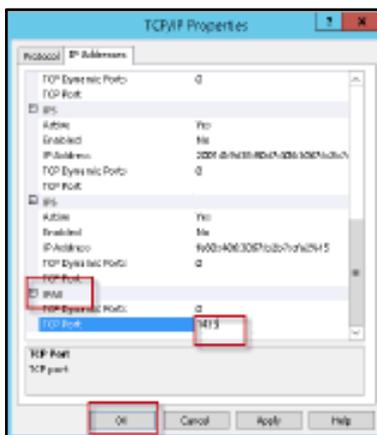
インストールしたSQLのネットワーク構成を開きTCP/IPを選択して右ボタンショートカットから「有効」にします。



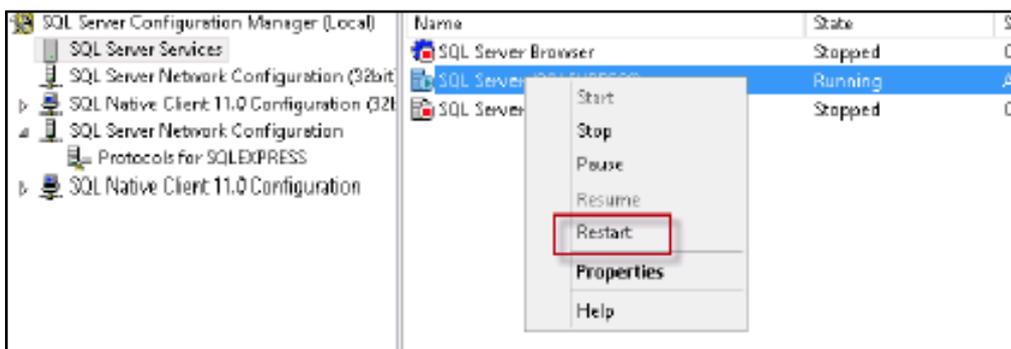
続いて「プロパティ」を選択して開きます。



「IPアドレス」タブの中で「IPAll」までスクロールし「TCP Port」の値を「1433」に変更して「OK」で保存します。



保存後にリスタートを実行するのを忘れないようにして下さい。



3.SQL環境構築 -

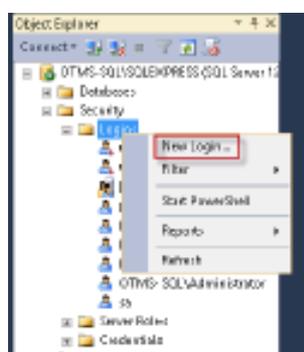
SQLにOnTimeアプリ用のユーザーを作成します

Tomcat上で動作するOnTimeアプリはデータストアとしてSQLを利用します。
その際に利用するユーザーアカウントを事前にSQLサーバーに登録しておきます。

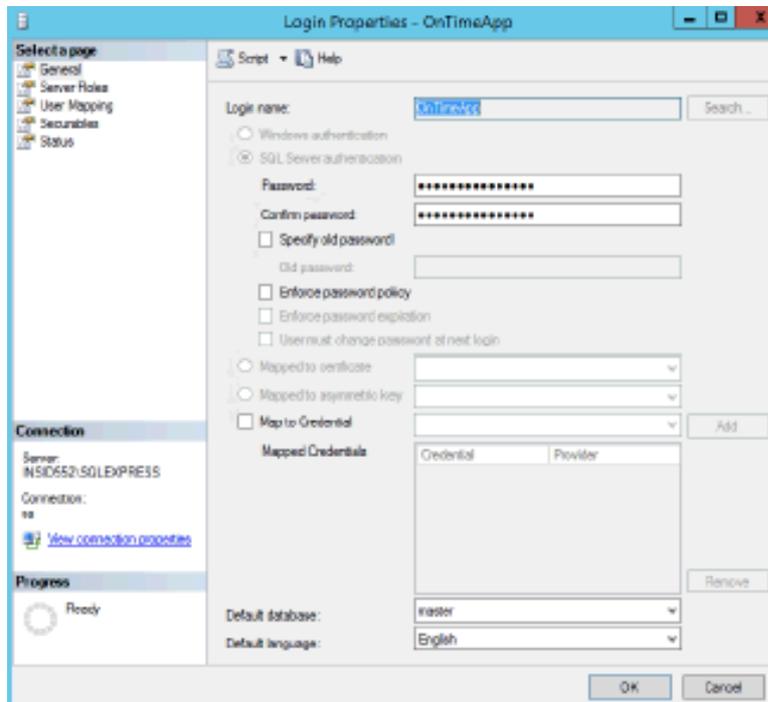
SQL Server Management Studioを起動します。
サーバーへの接続画面が表示されれば、インストールしたサーバーへSQL認証モードでsaでログインします。



次に「セキュリティ」タブの「ログイン」で右ボタンショートカットから「新規ユーザー」を選択します。

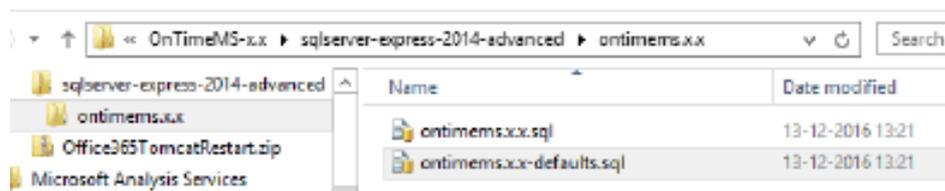


ユーザー登録画面では
ユーザー名を「OnTimeApp」とし、「SQLサーバー認証」を選択、パスワードはご自由に登録。
「Enforced password policy」のチェックは外します。
「OK」を押してユーザー登録を完了します。



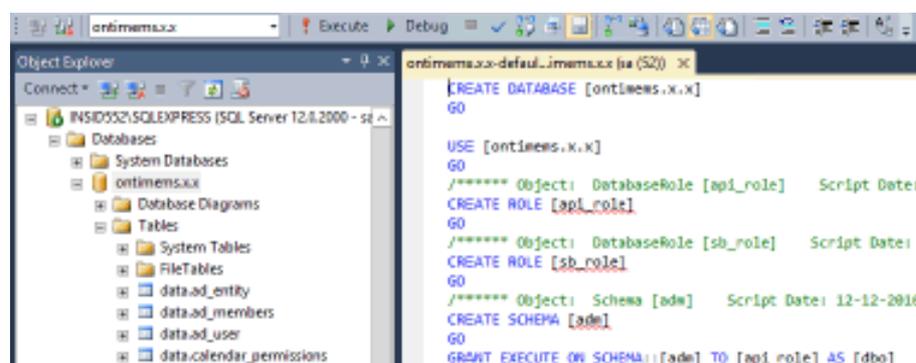
OnTimeアプリ用SQLデータベースをインストールします

ダウンロードしたzipファイルから「ontimems.x.x」フォルダに移動します。x.xはOnTimeのデータベースバージョンです。フォルダ内には2つのスクリプトファイルがあります。本マニュアルでは手動で細かい設定を必要としない「ontimems.x.x-defaults.sql」を利用します。



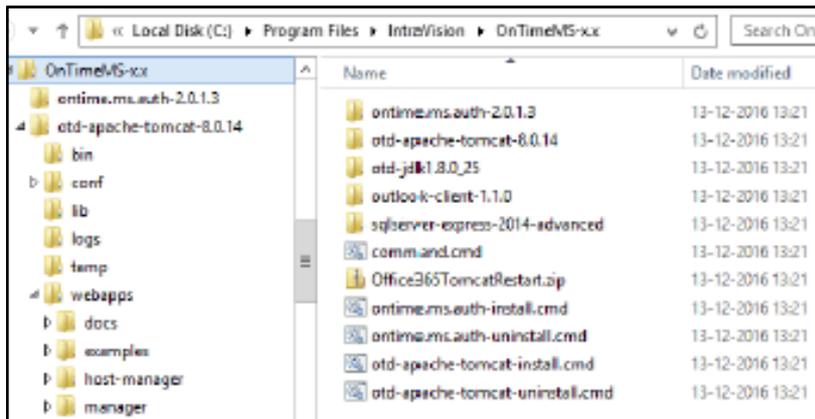
右ボタンショートカットから「SQL Management Studioから開く」を選択してスクリプトを開きます。開いたスクリプトにフォーカスが当たっていることを確認し、「実行」をクリックしてスクリプトを実行します。

実行後に「最新状態に更新」して新しく「ontimems.x.x」というデータベースが出来ていれば完了です。

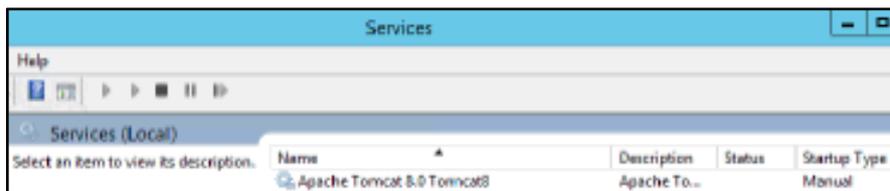


Tomcatと共にOnTimeアプリをインストールします

OnTimeアプリはTomcatサーバーと共にインストールされます。
ダウンロードしたzipファイルから「otd-apache-tomcat-install.cmd」をマウスでダブルクリックして実行します。
Tomcatは現在の実行ファイルの存在場所で実行されます。実行場所を変更する必要がある場合はフォルダを移動してから作業して下さい。



作業後、「サービス」画面にも「Apache Tomcat」が登録されますので「自動」に切り替えて起動して下さい。



OnTime 管理センターにログインします

ブラウザから

<http://HOSTNAME:8080/ontimegcms/admin>

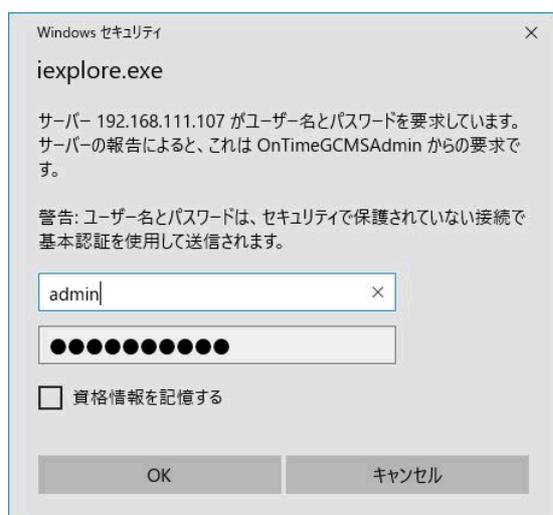
を開いてログインして下さい。

ログイン画面が表示されれば

ログイン名 : admin

パスワード : Innovation

でログインします。



ログインユーザー名とパスワードのダイジェスト認証への変更は動作するTomcatのユーザー管理に準拠していません。

詳細は以下のurlをご確認下さい。

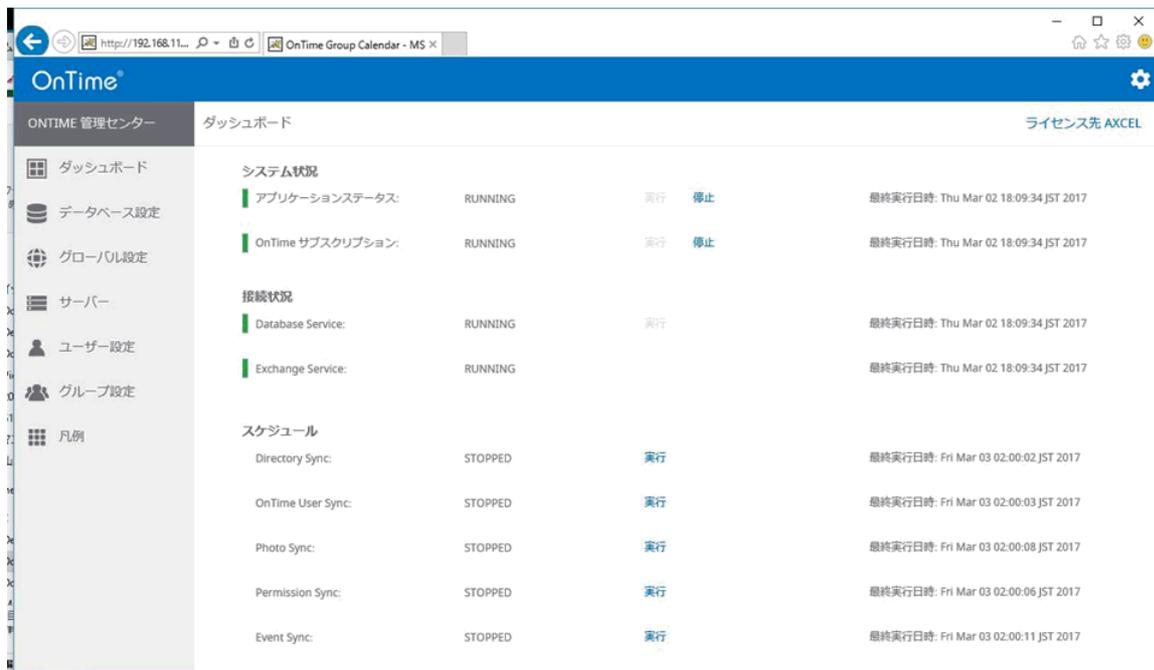
「管理ユーザーのログインパスワードの変更方法」

<http://www3.ontimesuite.jp/change-pw/>

5. OnTime 管理センター

ダッシュボード

ログインが完了すると以下の様な画面が表示されます。
 画像では日本語になっていますが、最初は英語です。(言語変更については「言語設定」ページを参照下さい。)
 全ての設定はSQLデータベースに保管されますのでまず最初に「データベース設定」ページをご確認下さい。



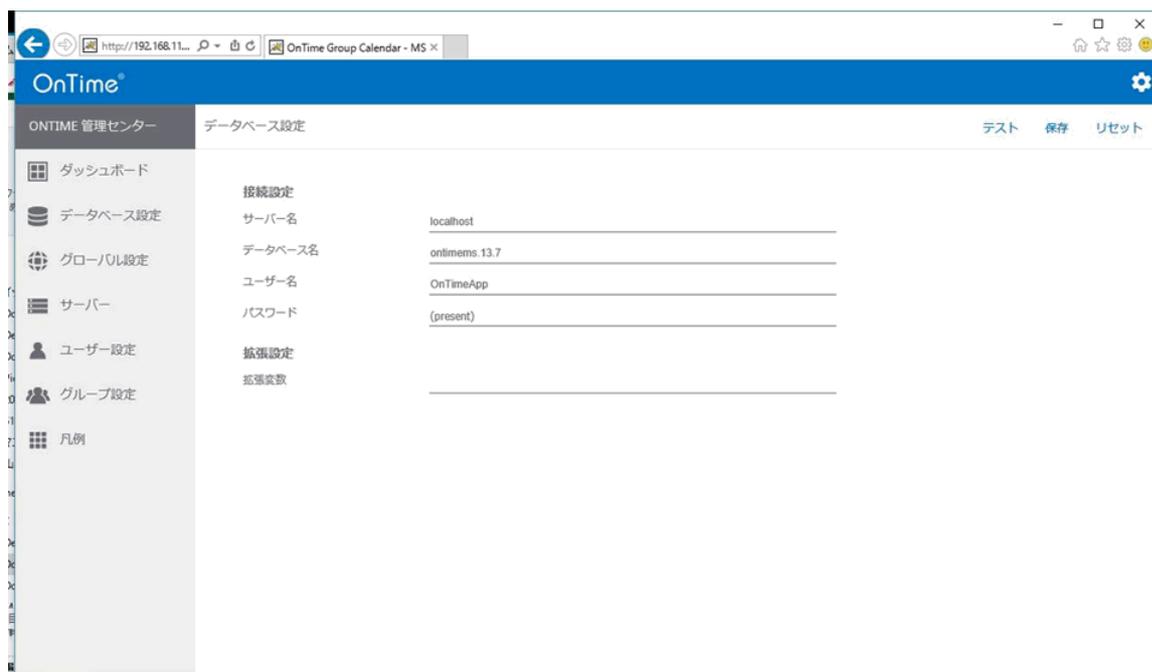
| | |
|--|---|
| システム状況 いずれも通常はグリーンです | |
| アプリケーションステータス | OnTimeアプリケーションの動作状況のステータスを表示します |
| OnTimeサブスクリプション | OnTimeのライセンスキーの有効性を表示します |
| 接続状況 いずれも通常はグリーンです | |
| Database Service | SQLデータベースとの接続状況を表示します。 |
| Exchange Service | Exchange EWSとの接続状況を表示します。 |
| スケジュール いずれも通常はSTOPPEDで問題ありません。設定を急いで反映する場合は手動実行出来ます 通常は自動実行され、Eventはほぼリアルタイム、他はAdmin処理で深夜2時に実行されます | |
| Directory Sync | Exchangeからユーザー/グループを更新します |
| OnTime User Sync | Exchangeユーザ/グループをOnTime SQLテーブルに同期させます |
| Photo Sync | Exchange 2013サーバーからユーザーの顔写真をインポートします Exchange2010以前はサポートしません |
| Permission Sync | 他のユーザーのカレンダーを更新するためのユーザーのアクセス権限を更新します |
| Event Sync | すべてのユーザーのカレンダーエントリを同期します。起動時と手動実行時はかなりの時間がかかります |

5. OnTime 管理センター

データベース設定

OnTime の設定や同期データは全て SQL データベースに保存されます。
 なので SQL データベースとの接続をインストール時もアップグレード時も一番最初に行ってください。

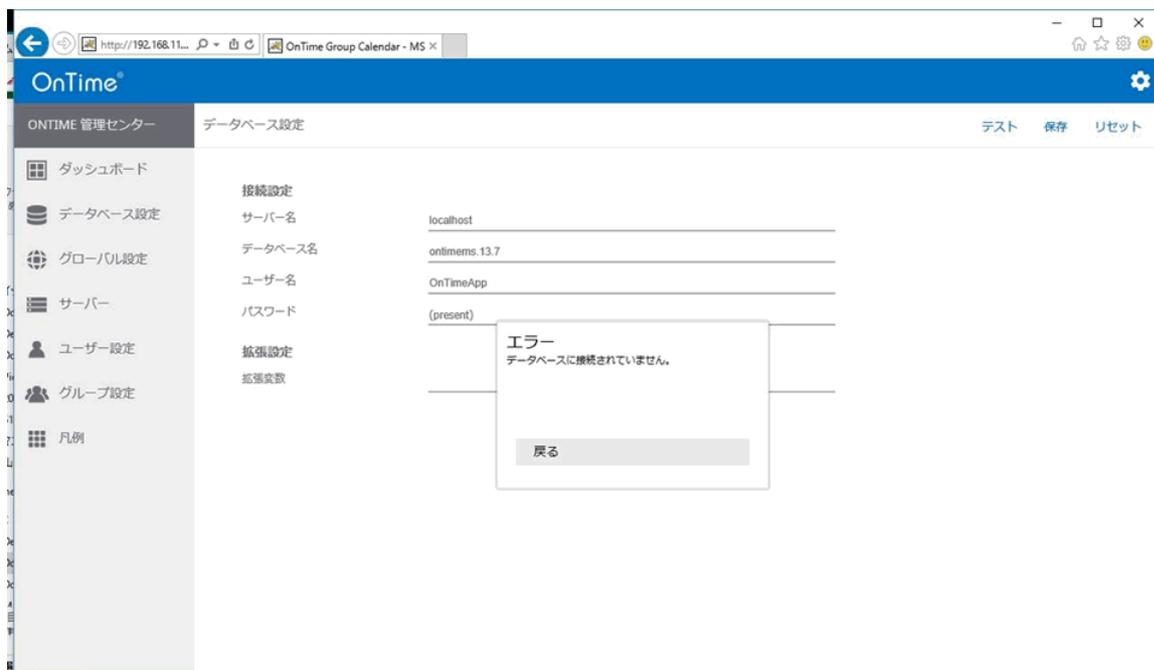
メニュータブで「データベース設定」を開きます。
 各項目に値を登録下さい。



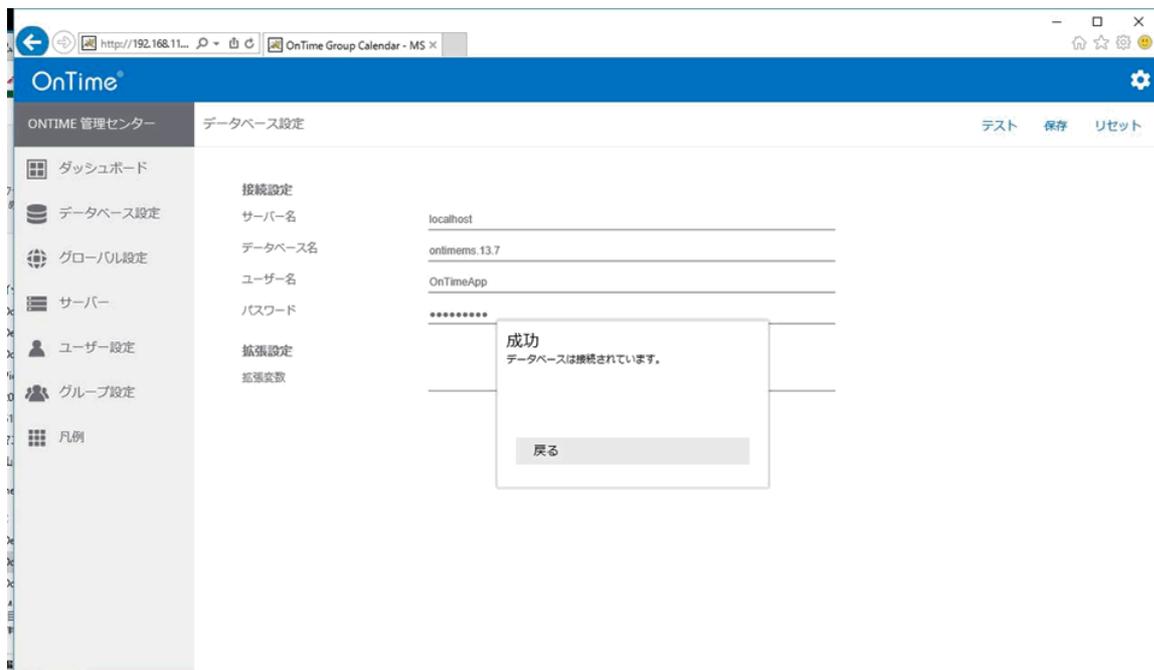
| 項目名 | 内容 |
|---------|--|
| サーバー名 | localhost もしくは SQLが稼働する外部ホスト名を入力 例:localhost |
| データベース名 | SQLサーバーにインストール下データベース名を入力 例:ontimems.13.8 |
| ユーザー名 | OnTimeApp |
| パスワード | 登録時に設定したパスワード |
| 拡張変数 | SQLとの接続に必要な追加変数がある場合は登録します |

入力したら右上の「テスト」をクリックします。

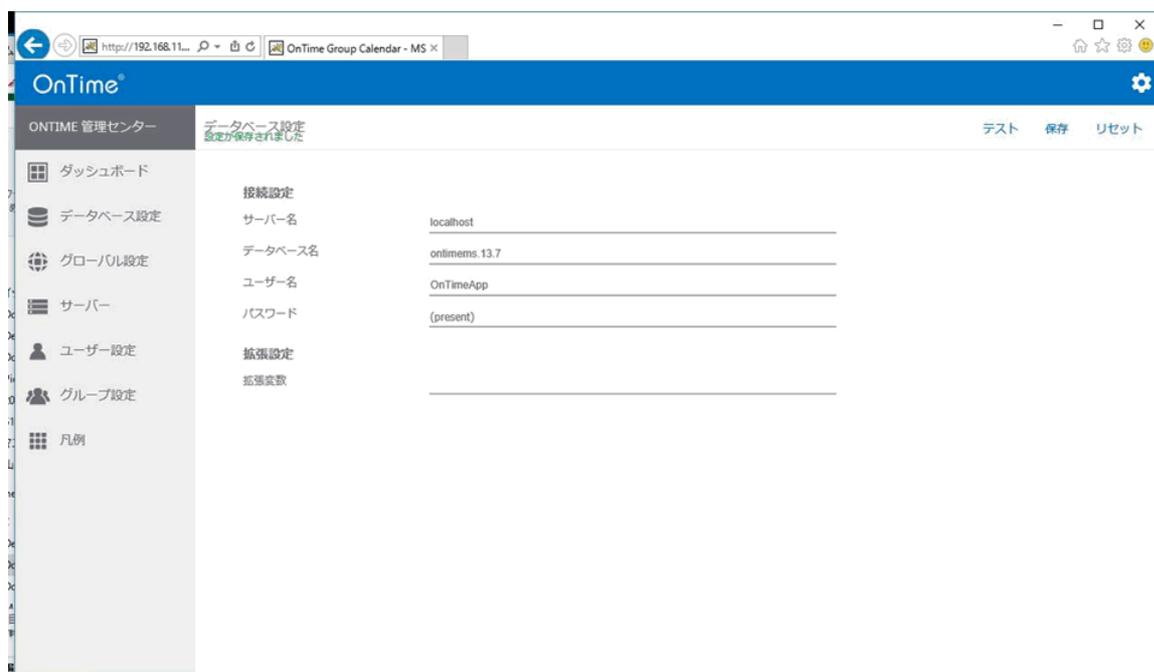
正しく接続出来ない場合は以下のような「エラー」ダイアログが表示されます。適宜修正して下さい。



正しく接続出来た場合は以下のような「成功」ダイアログが表示されます。「戻る」を押してダイアログを閉じます。



引き続き右上の「保存」ボタンを押して設定を保存します。
図のように画面左上に「設定が保存されました」と表示されます。

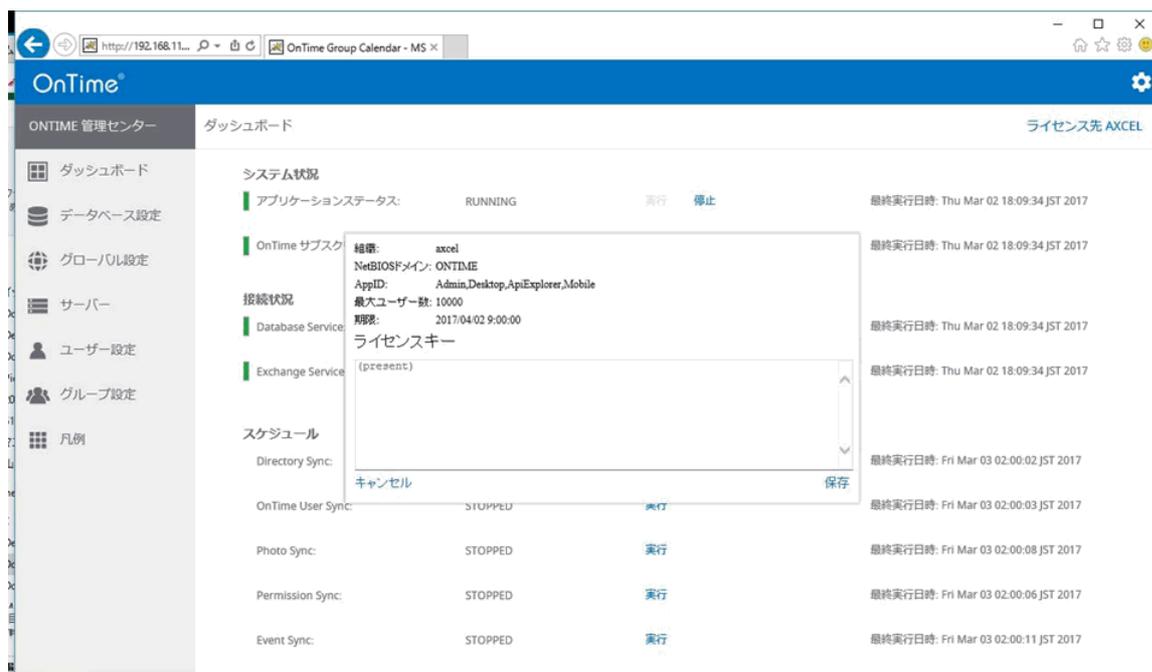


通常、設定を変更した際はアプリケーションの再起動が必要です。
ダッシュボードに戻り、「アプリケーションステータス」から「停止」「実行」を操作して下さい。

5. OnTime 管理センター

ライセンス登録

OnTimeのライセンスは、乱数のような文字列で提供しております。
 取得したライセンスキーの登録は右上の「NO LICENSE」(注:ここではライセンス:AXCELと表示)部分をクリックして登録用ダイアログを表示します。
 表示されたら前述の文字列を登録して「保存」を実行します。
 ご利用のライセンス情報についてはいつでもこのダイアログを表示することで確認出来ます。

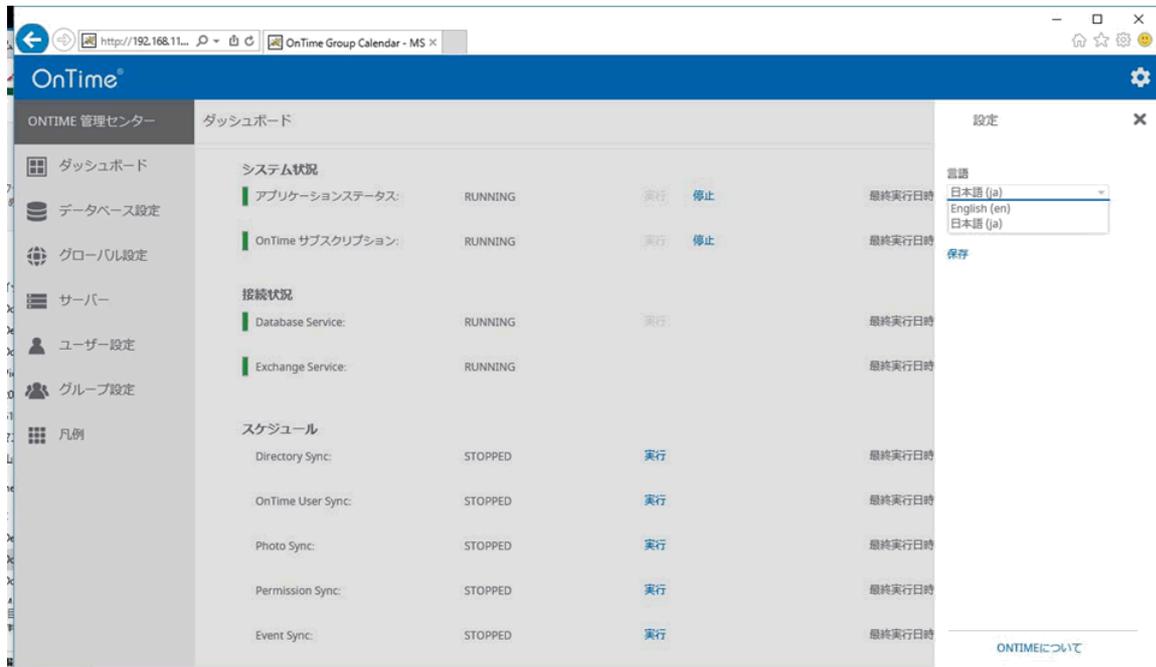


ライセンス発行時に必要となるUSERDOMAIN情報については以下のFAQを参照下さい。
<http://www3.ontimesuite.jp/userdomain/>

5. OnTime 管理センター

言語設定

OnTime 管理センターは英語と日本語をサポートしています。
画面右上の歯車アイコンをクリックして適宜切り替えて下さい。

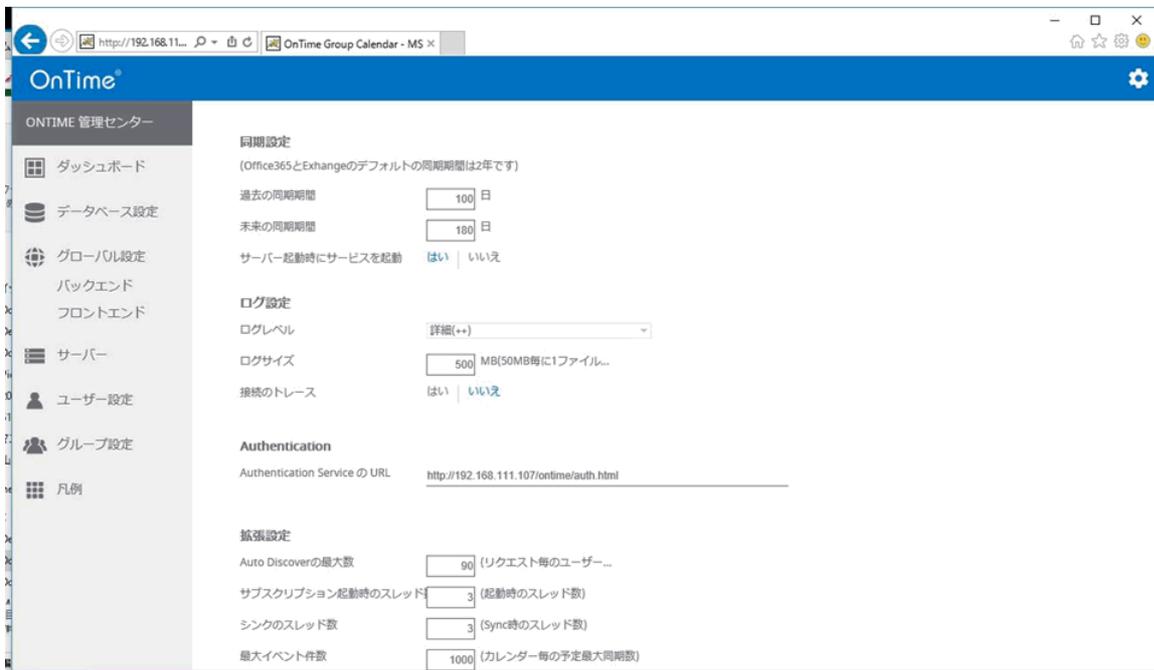


グローバル設定-バックエンド

このページではOnTimeサーバーの各種設定が行えます。



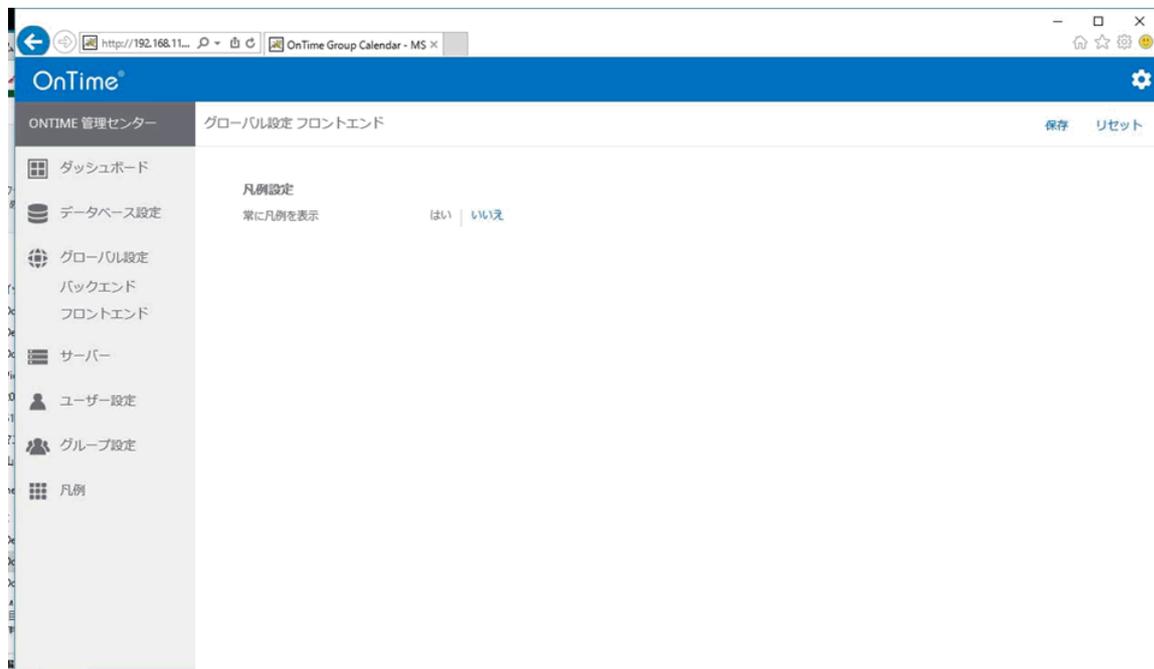
次ページにて各項目について説明します。



| | |
|--|---|
| 同期設定 Exchangeとの同期期間を指定できます。但しOffice365はそもそも2年分しか保持していないことを留意下さい。 | |
| 過去の同期期間 | 過去の同期期間の日数を指定します |
| 未来の同期期間 | 未来の同期期間の日数を指定します |
| サーバー起動時にサービスを起動 | 初回の設定作業時は「いいえ」にして作業を行って頂くことで設定変更の度に同期が勝手に起動しないように出来ます。 設定が完了すれば「はい」に切り替えて頂くことでTomcatが起動する度に自動で各同期サービスが起動するように出来ます。 |
| ログ設定 Tomcatのログのレベルと保存するファイルサイズを指定できます。通常は変更しないで下さい。 | |
| ログレベル | ログレベルを変更することでログの内容を変更出来ます。 |
| ログサイズ | 総ファイルサイズを指定できます。 いずれにしても50MB毎に新しいファイルが作成されます。 |
| 接続のトレース | 更なる細かいトレースデータが必要になる際に「はい」にします。 通常は「いいえ」にしてください。ログファイルは別途作成されます。 |
| Authentication | |
| Authentication Service URL | ADとのSSOを使用する際に指定します。通常は以下のurlとなります。 http://OnTime のホスト名/ontime/auth.html 別途SSO用プログラムのインストールが必要です。 |
| 拡張設定 通常は変更しないで下さい。 | |
| Auto Discoverの最大数 | 90は現行Office365の最大設定です。 |
| サブスクリプション起動時スレッド数 | スレッド数の変更はOnTimeサポートから依頼無しでへこうしないで下さい。 |
| シンクのスレッド数 | スレッド数の変更はOnTimeサポートから依頼無しでへこうしないで下さい。 |
| 最大イベント件数 | 1000は現行Office365の最大設定です。 |

グローバル設定-フロントエンド

このページではユーザー向けの各種設定が可能です。

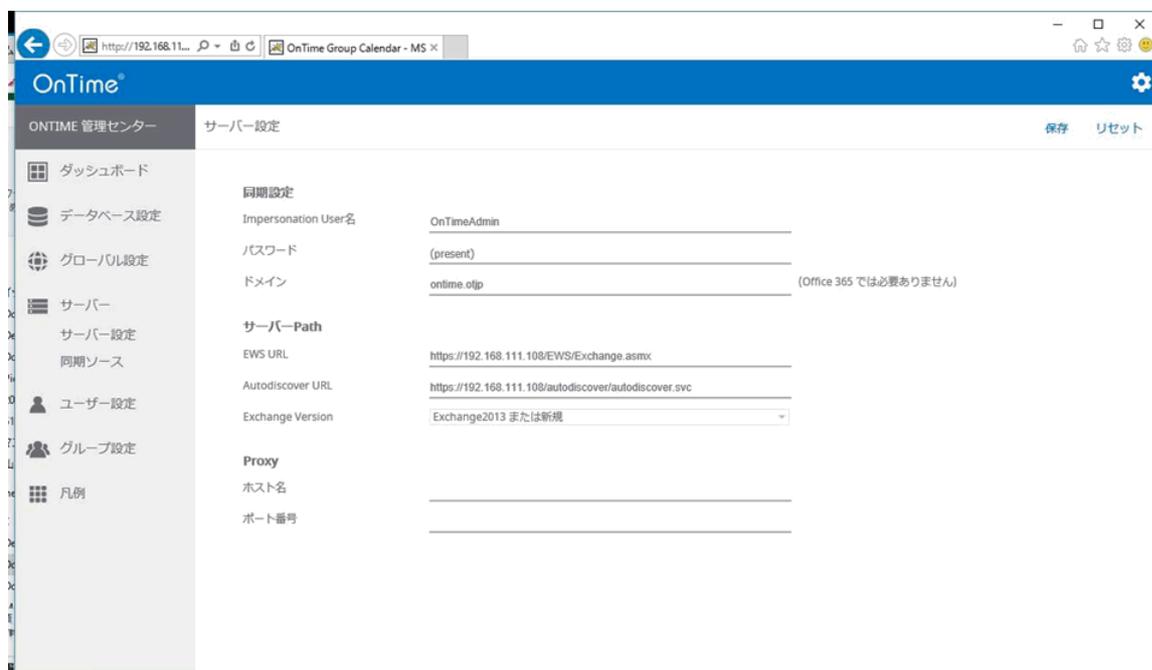


凡例設定

| | |
|---------|---|
| 常に凡例を表示 | はい・・・参照しているユーザーへの権限に依存せず凡例の色で表示します。 いいえ・・・参照しているユーザーへの権限がある場合に凡例の色で表示。 |
|---------|---|

サーバー - サーバー設定

このページではExchangeサーバーへの接続設定を行います

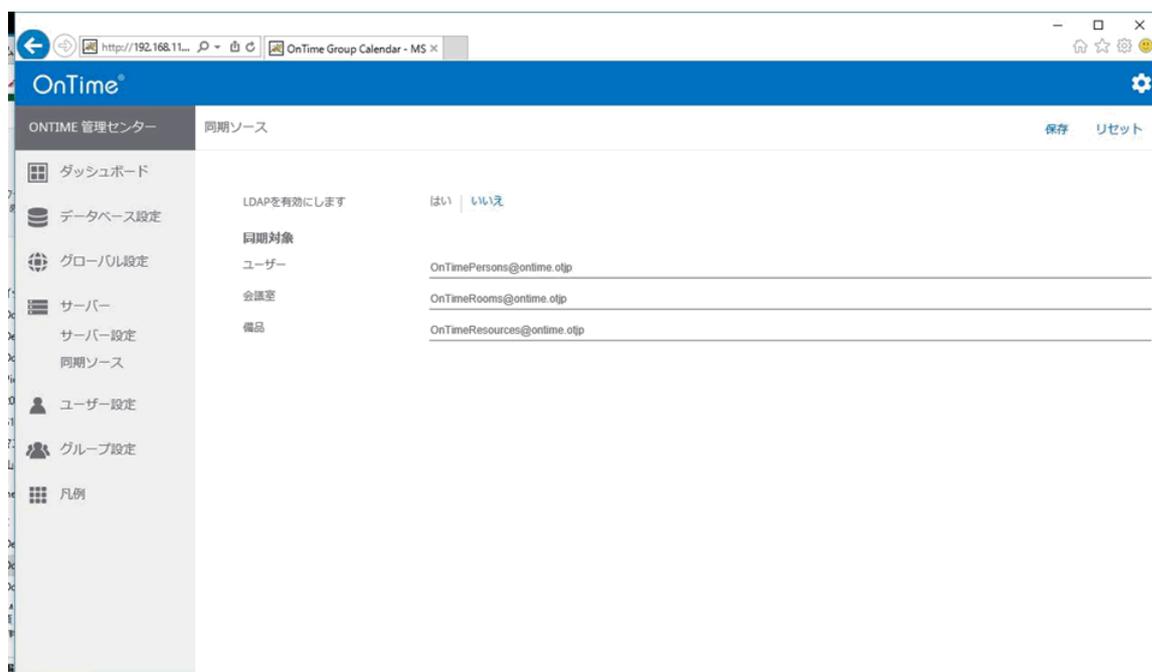


| | |
|---|--|
| 同期設定 ExchangeのEWSに接続するApplicationImpersonationのユーザー情報です。予めご準備下さい。 | |
| Impersonation User名 | 通常はメールアドレス形式での登録です。 "\"を使用したドメインネームで登録時はローカルパートを設定してください。 |
| パスワード | パスワードを設定してください。 |
| ドメイン | "\"を使用した登録の際はドメイン名を設定してください。 |
| サーバーPath Exchangeサーバーの情報です | |
| EWS URL | オンプレのExchangeの場合は適宜変更してください。Office365の場合はデフォルトです。 https://outlook.office365.com/EWS/Exchange.asmx |
| Autodiscover URL | オンプレのExchangeの場合は適宜変更してください。Office365の場合はデフォルトです。 https://outlook.office365.com/autodiscover/autodiscover.svc |
| Exchange Version | ご利用のExchangeのバージョンを選択してください。Office365はExchange2013の方を選択してください。 |
| Proxy OnTimeサーバーからExchangeサーバーにProxyを経由する必要がある場合は設定してください。 | |
| ホスト名 | ホスト名を設定してください。 |
| ポート番号 | ポート番号を設定してください。 |

5. OnTime 管理センター -

サーバー-同期ソース

このページではExchangeと同期するユーザーやリソースを指定できます。
予め準備したユーザー、会議室、備品、それぞれの配布グループを登録してください。
複数のグループアドレスを登録する際はカンマで区切ってください。

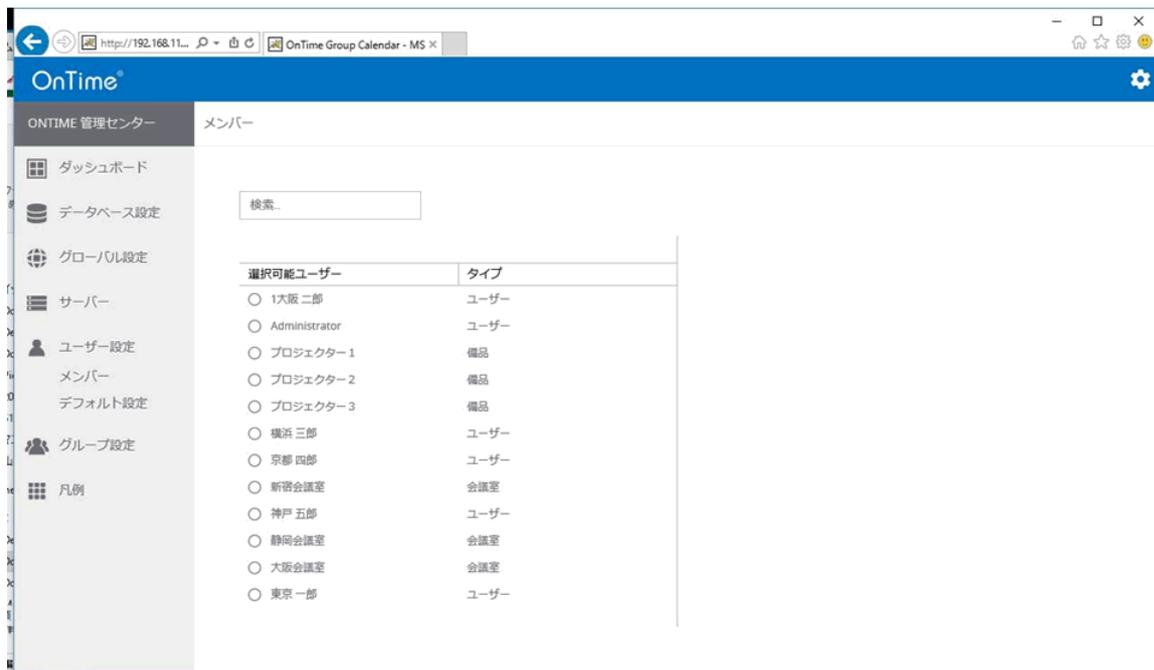


「LDAPを有効にします」は常に「いいえ」でご利用ください。
日本ではLDAPによる同期ソースの指定は現在サポートしておりません。

5. OnTime 管理センター -

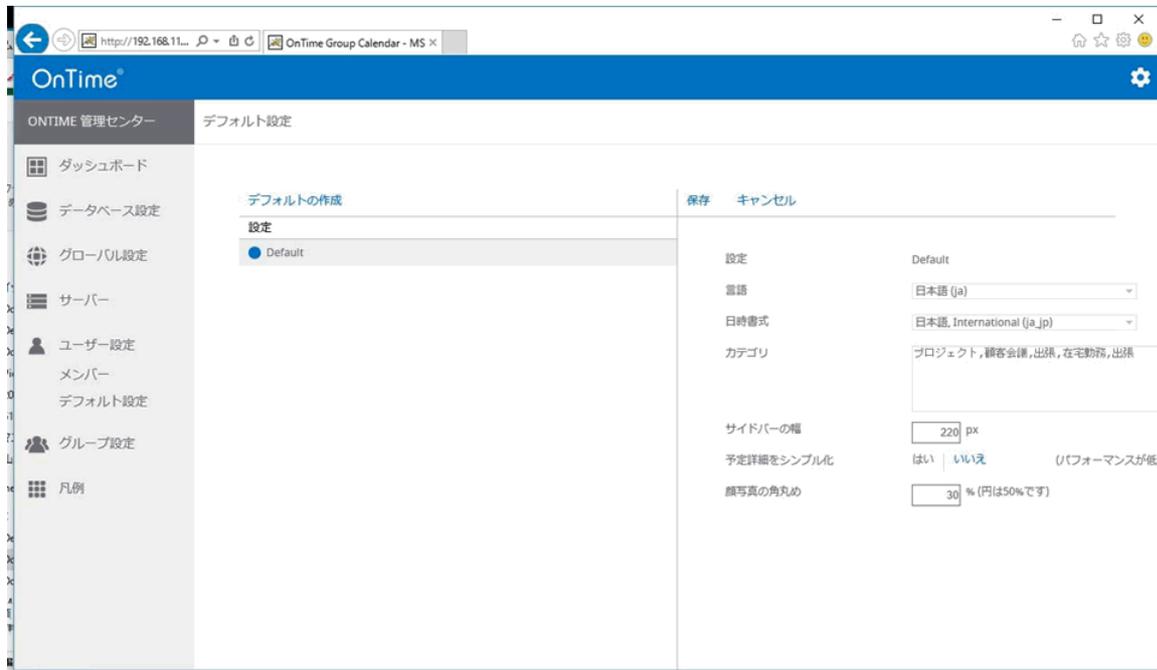
ユーザー設定-メンバー

このページではOnTimeで同期しているユーザーを確認出来ます。
 検索を使用して表示名から検索することも出来ます。
 リストを選択することで右により詳細な情報が表示されます。



ユーザー設定-デフォルト設定

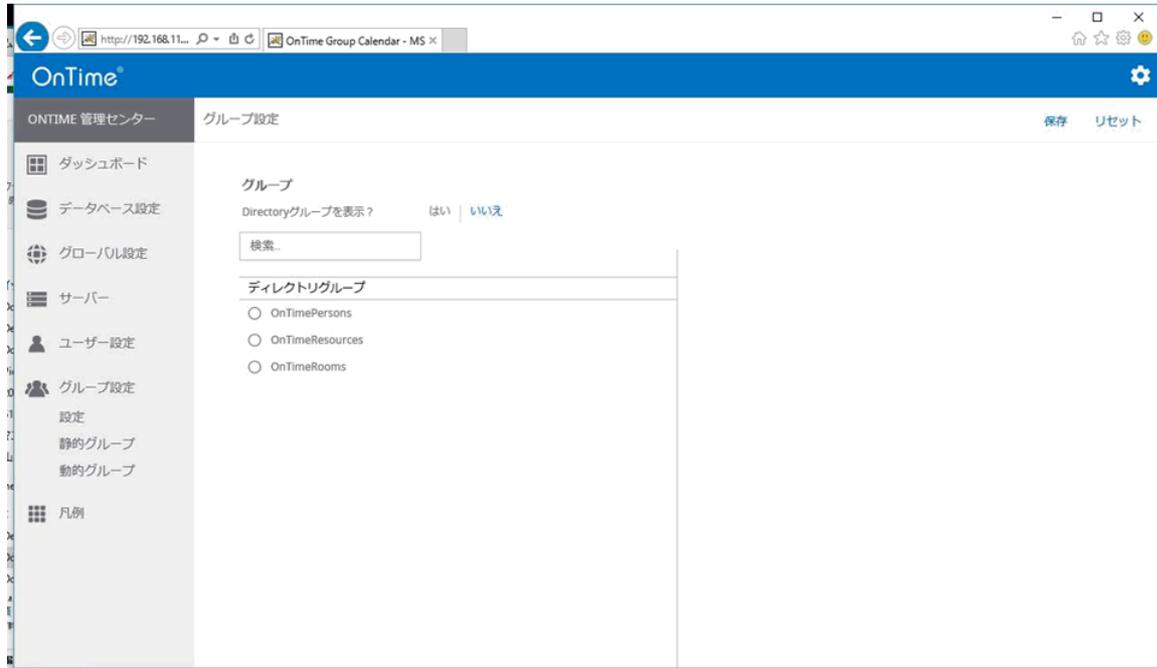
このページではユーザーが初回にログインしたときの言語や日付書式の設定他が設定できます。



| | |
|------------|---|
| 言語 | ご利用になる言語を選択して下さい。 |
| 日時書式 | ご利用になる日時書式を選択して下さい。 現在では「日本語 Imperial」はサポート終了しました。 |
| 分類(カテゴリ) | ご利用になる分類の選択肢をカンマで区切って登録下さい。 選択肢はユーザーのイベント作成画面の分類の選択肢として表示されます。 Outlook上の色分類と同等機能ですが、色表現については更にその他の条件と共に細かく制御できます。詳細は「凡例」を参照下さい。 |
| サイドバーの幅 | 左に表示されるサイドバーの横幅をピクセル単位で設定できます。 |
| 予定詳細をシンプル化 | サーバーが高負荷な場合、予定詳細の最初の表示をシンプル化することでサーバーの負担を軽減できます。実施する際は「はい」を選択して下さい。 |
| 顔写真の角丸め | 顔写真を正四角(0)から正円(50)まで制御できます。 |

グループ設定-設定

このページではディレクトリ上のグループを表示グループに使用するかを設定できます。
個別の表示非表示は指定できません。



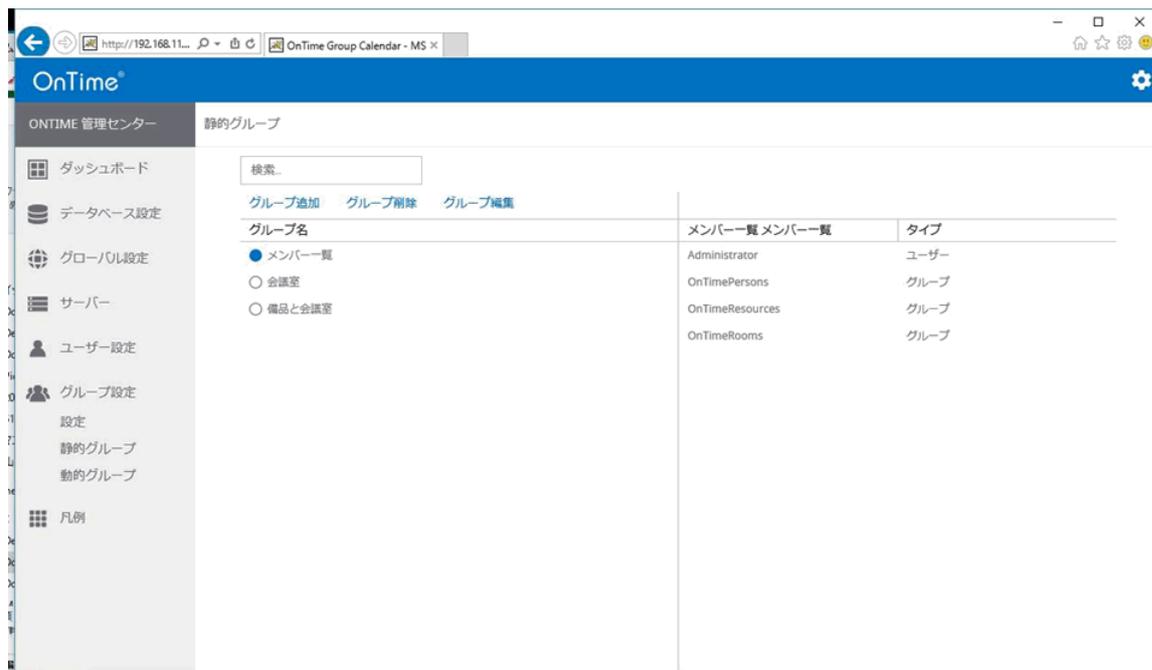
5. OnTime 管理センター

グループ設定 - 静的グループ

このページでは OnTime ユーザーが全員で利用出来る静的表示グループを作成出来ます。
静的グループは表示グループ名とそのメンバーとなる Exchange ユーザーや Exchange グループを直接指定する事が出来ます。Exchange グループ内のユーザーが変更になっている場合は、深夜 2 時の Admin 処理で更新されます。

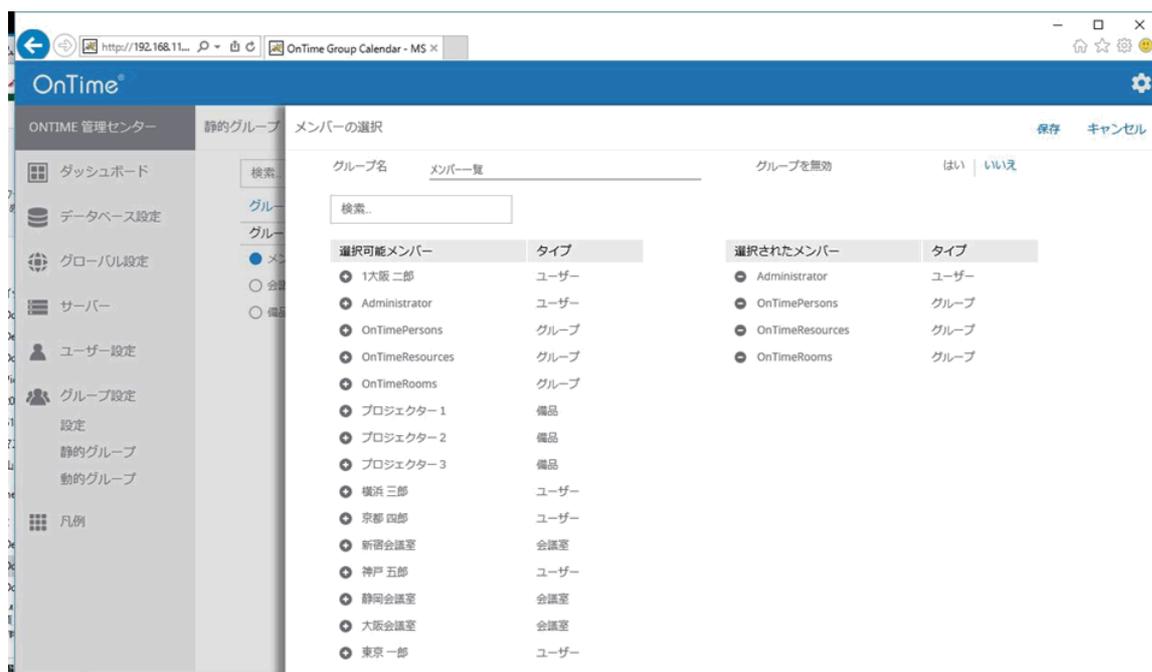
静的表示グループ一覧画面

表示グループを選択すると右にメンバー一覧が表示されます。「グループ編集」で編集が出来ます。



静的表示グループ編集画面

表示グループ名とメンバーを選択します。一時的に利用しない場合は「グループを無効」を「はい」にして下さい。



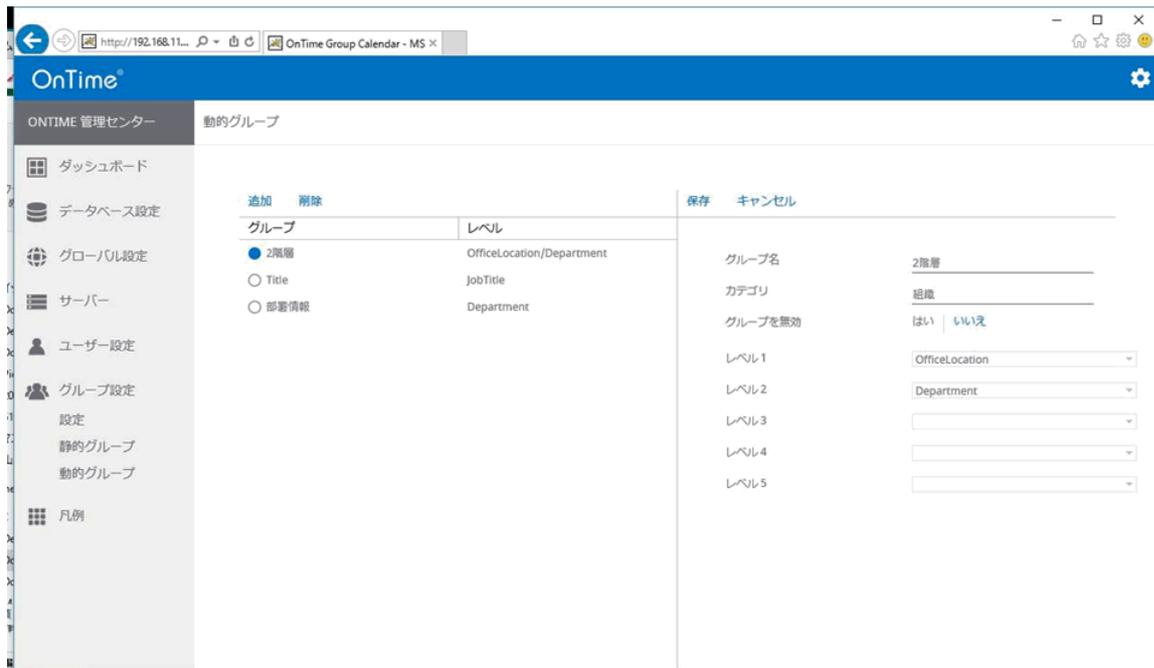
5. OnTime 管理センター -

グループ設定 - 動的グループ

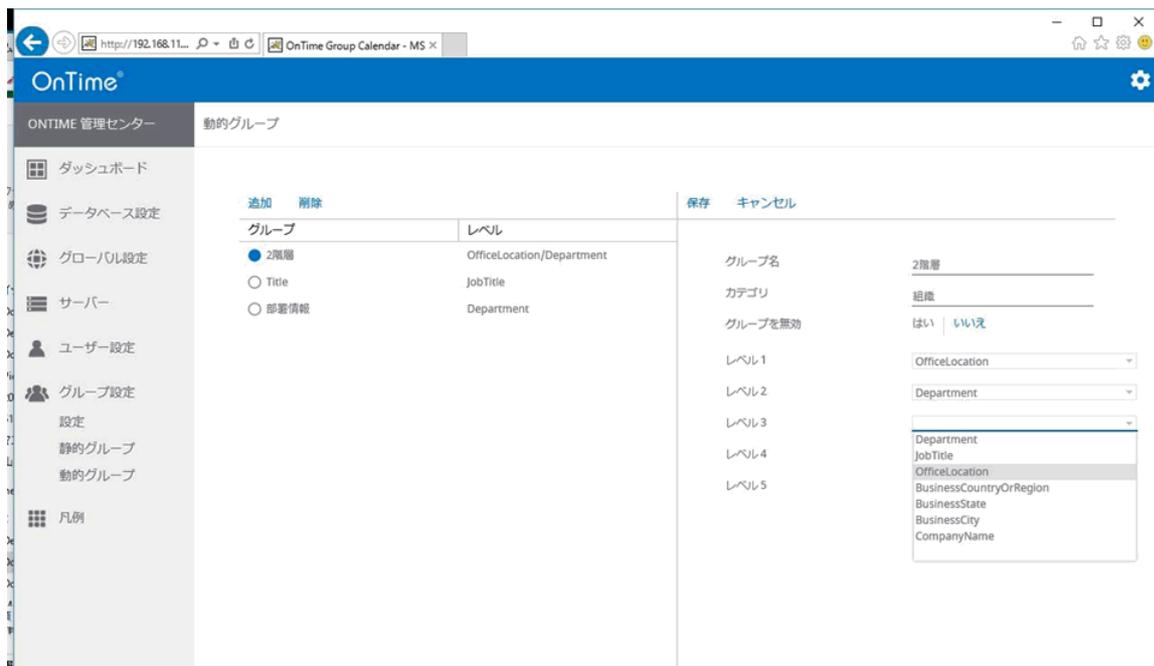
このページは OnTime ユーザーが全員で利用出来る動的表示グループを作成出来ます。
動的グループは Exchange ユーザーの組織属性を利用して多階層のグループを自動生成する機能です。
作成したグループ設定は毎深夜2時の Admin 処理で更新されます。

動的表示グループ設定一覧画面

動的表示グループ設定の新規登録と編集が行えます。設定を選択すると右に設定の詳細が表示されます。



設定画面では各項目を設定します。



| | |
|------------|--|
| グループ名 | 管理センター内での識別用の名前を設定します |
| カテゴリ | OnTimeクライアントでグループツリーのトップに表示される名称を指定します |
| グループを無効 | 一時的に使用しない場合は「はい」を選択します |
| レベル1、2、... | グルーピングする階層ごとに属性を選択します |

5. OnTime 管理センター

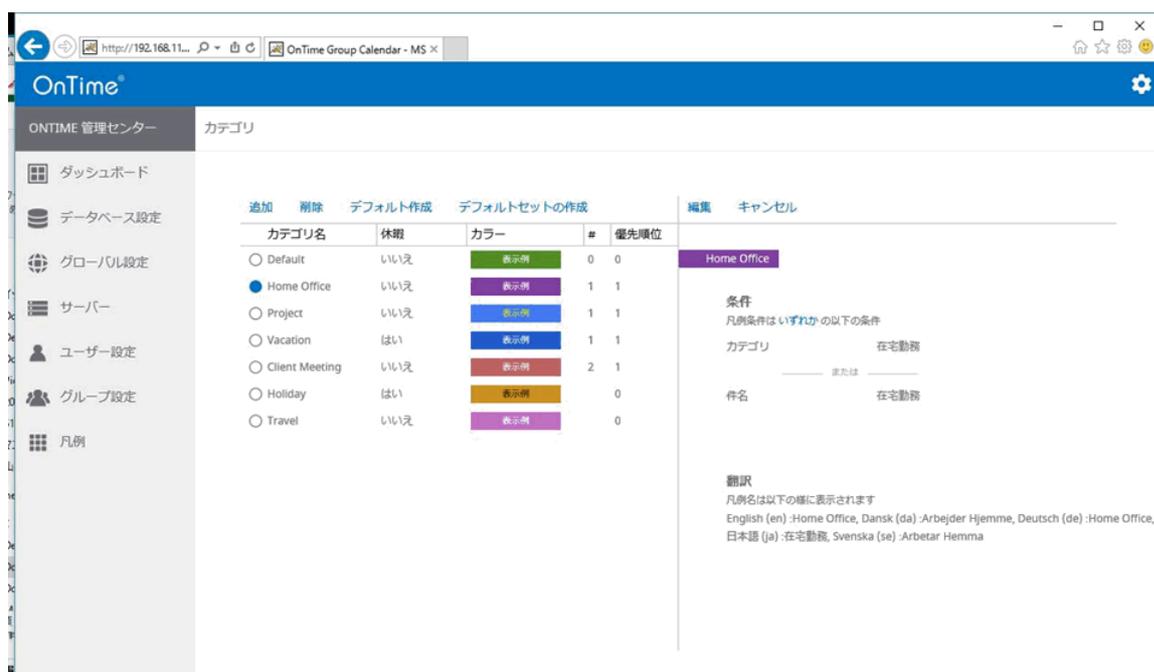
凡例

OnTime 上での色分類を凡例として設定します。
OnTime での色表現は Outlook の色分類とは若干違います。
以下の3つの項目について AND 条件か OR 条件で設定できます。

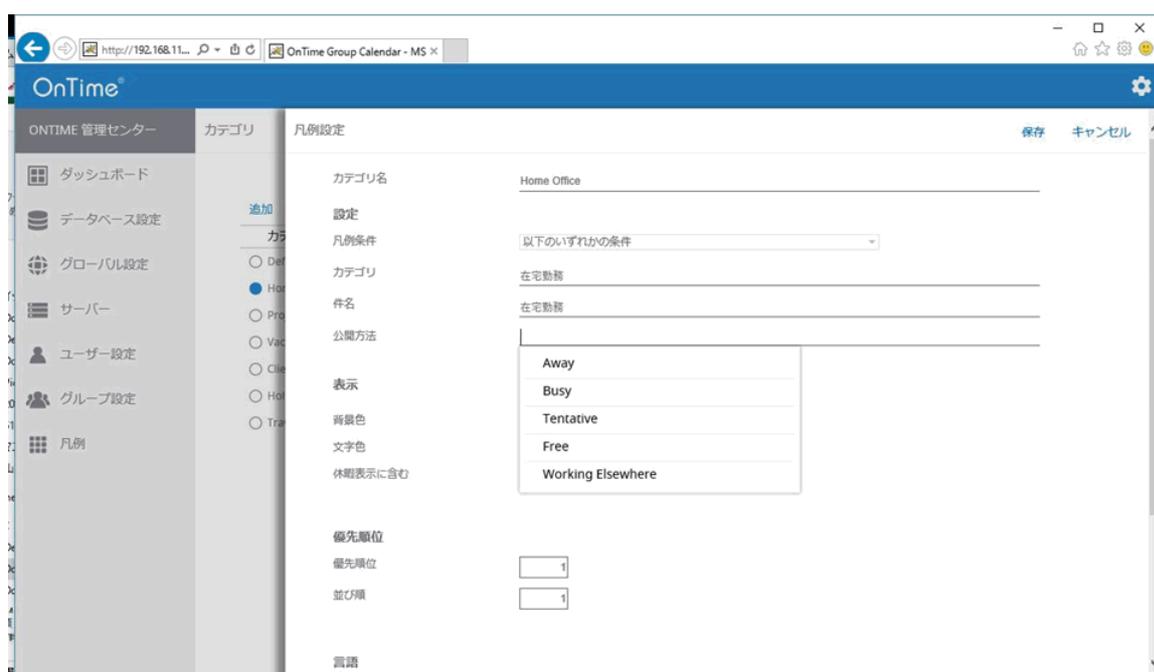
凡例一覧画面

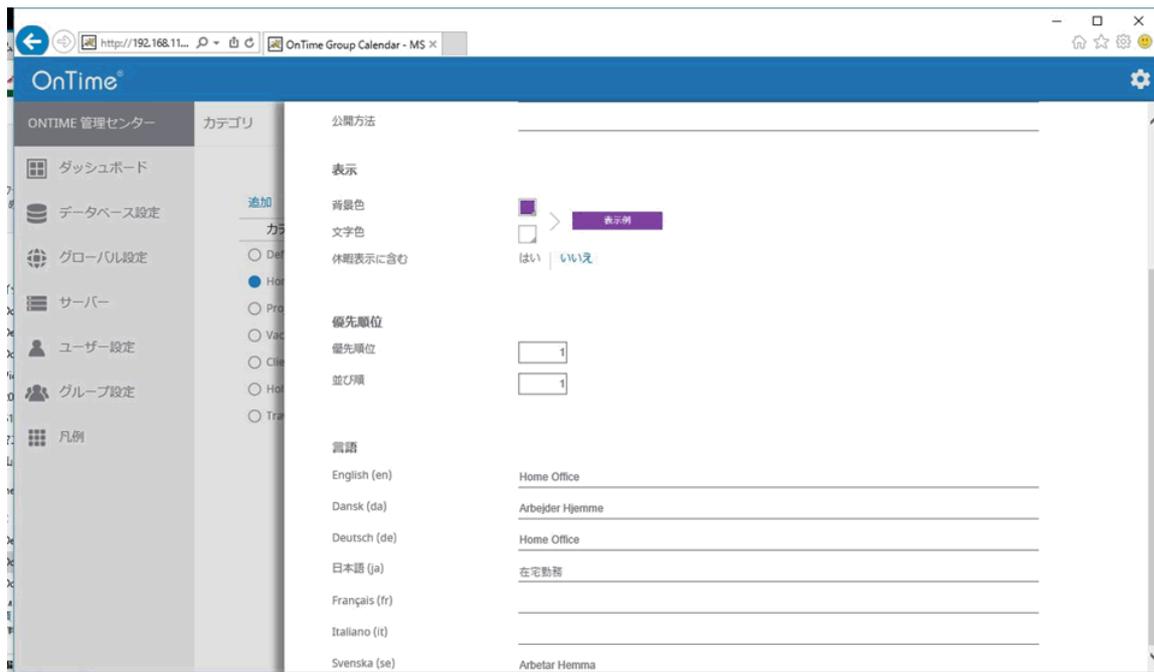
管理している凡例が表示されます。

デフォルトセット作成を押すと基本的な設定をサンプルとして作成されます。作成後はもちろん自由に編集可能です。



凡例を選択するか追加をクリックすると下図の様な画面が表示され編集が出来るようになります。





| | |
|-------------|-----------------------------|
| 凡例(カテゴリ)名 | 管理センター内での識別用の名前を設定します |
| 設定 | |
| 凡例条件 | AND条件かOR条件にするかを設定します |
| 分類(カテゴリ) | 分類の名称を指定します |
| 件名 | 件名に含む文字列を指定します |
| 公開方法 | 公開方法の種類を指定します |
| 表示 | |
| 背景色 | 背景色を選択します |
| 文字色 | 文字色を選択します |
| 休暇表示に含む | この条件のイベントを休暇ビューに表示するかを設定します |
| 優先順位 | |
| 優先順位 | 複数の凡例条件に合致した場合の優先順位を指定します |
| 並び順 | 凡例表示の表示順を指定します |
| 言語 | |
| 各言語 | 各言語モードでの表示名を設定します |